

## 分科会報告 ②-2

1. コーディネーター 大泉太由子

2. テーマ

「食と観光」による地域活性化

3. 参加者数 8名

宮城県 5名 山形県 2名 福島県 1名

4. ディスカッション内容

10代から70代まで、学生、公務員、会社員、秘書、経営者の方々が集まり、「食を活かした観光」というテーマで、意見交換を行いました。

### ① 食と観光についての問題意識

- ・ 食に関して他県と比較すると自県(福島県)はPRが下手
- ・ 他県と連携してPRするにはどうしたらよいか
- ・ 生産だけではない農業と観光を組み合わせた新しいアイデアがほしい
- ・ 観光に食はつきもの、福島の復興を応援したい

### ② 食を提供するサービス

- ・ お店の態度が悪いときがっかり、「おもてなし」があれば居心地がよい
- ・ 感動には「心遣い」が大切。相手を家族と思うことで「心遣い」が生まれるが、核家族化が進行したため、子供たちは「心遣い」が出来なくなっている

### ③ 情報発信

- ・ 観光客のニーズに合わせて地域内の大きな農園、小さな農園でも受入れられるようなマップがあればよい
- ・ 農産物に物語(ストーリー)を足すと付加価値UP
- ・ 「若旦那図鑑」は土湯温泉が発祥で、全国に広がっている
- ・ 行政の役割として地域内の生産者や飲食業の方々の情報を紙媒体だけでなく、ネットを活用して積極的に情報発信することも必要かも
- ・ ほどほどの美味しさでもブランド化すれば知名度が向上。重要なのはイメージ戦略
- ・ 隣り合わせの伊達市と丸森町、それぞれが作る干し柿は「あんぽ柿」と「ころ柿」県の垣根を越えて東北みんなでPRすれば相乗効果大

### ④ 地域の伝統料理の発掘

- ・ 交通の便が悪く簡単にはたどり着けない桧枝岐村だが、古くから伝わる<sup>やまうど</sup>山人料理(山菜料理)は絶品
- ・ 山形のそば街道は人気。近くに温泉があり、そばを食べてお風呂に入るというコースが出来ている

### ⑤ まとめ

- ・ 農家も飲食業も宿泊業も一軒だけでなく、地域や県単位、東北としてつながっていくとよい
- ・ 食は命をつなぐ大切なもの、食のちからでみんなが楽しくなればよい